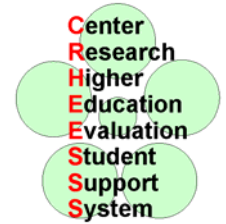


週刊センターニュース No.59



第59号(2005年5月9日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会のご案内

第73回 日時: 5月12日(木) 16:20~17:50

会場: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階大会議室

報告者: 堀井 祐介(大学教育開発・支援センター助教授)

題目: 「コペンハーゲン大学の取り組みについて」

学生支援、大学連携、e-Learning、ポータルシステム」

第74回 日時: 5月19日(木) 16:20~17:50

会場: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階大会議室

報告者: 西山 宣昭(大学教育開発・支援センター助教授)

題目: 「石川シティカレッジにおける最近の取組について」

以下の第75回は、金沢大学IT教育推進プログラムの一環として、当センター共同学習会と本学イーラーニング研究会との第10回合同研究会として開催します。

第75回 日時: 5月23日(月) 16:20~17:50

会場: 総合メディア基盤センタープレゼンテーション室

報告者: 小松川 浩(千歳科学技術大学助教授)

題目: 「理工系のe-learningを介した全学的な教育プロジェクトの実践

- リメディアルから専門教育へ向けた展開 - 」

概要: 千歳科学技術大学では、理工系分野でのリメディアル教育とキャリアアップ教育に対して、積極的にe-learningを適用している。リメディアル教育については、高大連携の枠組みを利用して、高校・大学双方の教員の協力に基づくe-learning教材の開発を行い、双方の授業で実際に活用している。特に、最近では高校側が中学と、大学の初年次教育が専門教育と連携することで、幅広い理工系の知識の共有をe-learningを通じて行う取り組みを実践している。また、情報系の教員と各科目担当教員が連携し、コンテンツ及びシステム開発に積極的に学生を参加させることで、一連の取り組みを情報キャリアアップ教育に繋げる試みを行っている。日頃e-learningを利用する側の学生が、実際に開発体験を行える教育プログラムを通じて、専門教育に対する効果的な動機付けを図る狙いとなっている。

本学IT教育推進プログラム～補充教育との関わり

来年度から、ゆとり教育の世代の入学が始まる。昨年度参加したいくつかの高等教育関連の研究会や講演会でも取り上げられていたが、概要に終始するものが多く、検討すべき問題であるとの認識は持ったが、ゆとり教育以前の学生と比較して、具体的にどの程度学習内容に隔たりのある学生が入学してくるかについての分析を目にすることはできなかった。本学では、来年度からの実施に向けた新

しい教養カリキュラムについての検討が現在最終段階を向かえているが、ここでも補充教育の必要性が指摘されているものの具体的な学習プログラムの立上げは予定されていない。学習内容の隔たりの分析と対応する補充教育の実施についてこの1, 2年のうちに早急に検討する必要があると思われる。特に指摘されているのは理系科目についてである。大学初年次の基礎科目の学習に影響があるとすれば重大な問題である。各学部、共通教育機構、各系が連携し、全学的に組織的に取り組む必要がある。その糸口となる取組が、本学IT教育推進プログラムにおいてすでに始まっており、IT教育推進プログラム全般とともに紹介したい。

4月28日、当センターの共同学習会とIT教育推進プログラム主催のイーラーニング学習会の合同で、総合メディア基盤センターの鈴木恒雄教授とIT教材作成支援室長の森祥寛氏とによりIT教育推進プログラムの取組全般について説明があった。このプログラムは、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択され、総合メディア基盤センターを中心に各部局の協力に基づき実施されている。

一つの重要な取組は、IT教材の作成支援である。IT教材支援室が設置され、主に学生をアルバイトとして雇用し、教材作成支援が行われている。現在、31科目の教材作成支援が実施中で、8科目についても今年度の実施が予定されている。パワーポイントなどで授業内容を電子ファイル化したり、黒板やプリントで示してきたイラストなどをソフトを用いて用意するのは手間がかかり習熟していないとかなりの時間を要する。教材支援室は、教員の意図する授業内容の電子ファイル化を全面的に支援する。学生アルバイトとして、教員自身の研究室の学生をアルバイトとして雇用することもできる。もちろん、支援室の技術的なノウハウに習熟したスタッフがアルバイト学生の指導を行う。ひとたび、授業内容がデジタル化されれば、動画やビデオ、写真、音声、インターネット情報を容易に挿入することが可能となる。実際に授業で用いるばかりでなく、ネットワークを通して予習、復習など自宅学習にも使うことが可能となる。教材支援室に、このようなIT教材作成、運用などイーラーニングについて全面的に相談に乗ってもらえる。IT教材支援室には、簡易製本機が導入されており、デジタル教材に限らず、教員独自の教科書や研究報告書の印刷支援も行っている。10冊以上の印刷要請に応じてくれるとのことである。

授業内容の電子ファイル化などイーラーニングの最大の効用は、その教材を用いた自学自習が可能となることと考えられるが、補充教育はイーラーニングの格好のターゲットといえるだろう。補充教育のため新たな授業を開講することは難しいし、達成すべき学習目標は学生によってまちまちである。IT教材作成支援室では、高校教科書に基づいたIT教材開発にすでに着手している。今後は、学部、系とIT教育推進プログラムとが連携して補充教育の企画、実施を行いうる体制を構築していくことが必要と思われる。

上の共同学習会のご案内にあるように、5月23日、千歳科学技術大学の小松川先生による講演が予定されている。理工系分野のリメディアル教育について、高校・大学の教員の協力によるイーラーニング教材開発についての話も含まれており、本学における補充教育の実施体制を考える上で大いに参考になるとと思われる。多数のご参加をお願いしたい。(文責 大学教育研究開発部門 西山)